

紙用稿原聞新日朝京東

困り申しとす。 平凡とすしニ三十回繰くとの銘定あす
 とはつた千万也。 少生は明らけの鼓あそびやと水と、成程今
 の京でみると長くやうさうな書方也。 志かしやうの好むは
 らうとすし今とやうては粗忽と恥ら入る比身おれどりや
 平凡とすし一ねて終るやう 瑠璃子とんまいて貰ふの福定
 の地ワ候しやうとす時、世に候てあつてはひとをき苦續り
 せ、平終し来りこす浮こい 羨し社令とあつば止むとす
 ど、少生の終りまるとやうゆは、折角しや苦心と無さす
 のア像一

